



ダムは、大雨のとき、放流する水量をコントロールし、ダム下流河川の急激な水位上昇をおさえています。

令和5年8月の台風では、鳥取市の佐治川ダムで、限界を上回る雨量によりダムが満水となり、上流からの水を貯めることができなくなったため、緊急放流※を行いました。

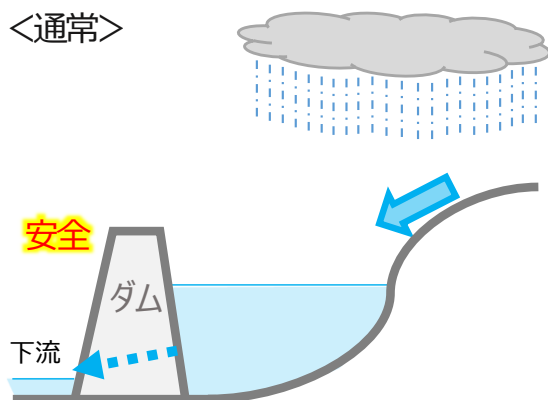
近年、気候変動による洪水リスクが高まっていると言われており、**ダムがあるから安心と思わず、早めに避難し命を守る行動をとってください。**

※緊急放流は下の図を参照してください。

ダムの限界

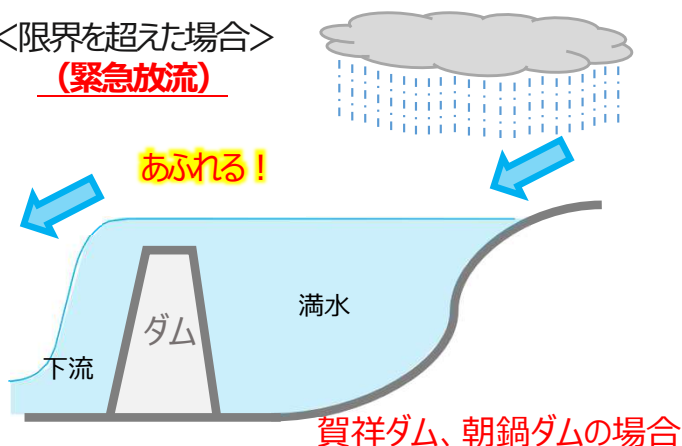
大雨のときは、上流から流れてくる水の一部をダムにためることができるため、下流は安全です。

<通常>



豪雨により貯水能力の限界を超えると、ダムに流れてきた水がそのまま下流へ流れるため、被害が発生する恐れがあります。

<限界を超えた場合>
(緊急放流)



賀祥ダム、朝鍋ダムの場合

ダム放流への備え

緊急放流の場合、河川の水量が増えて氾濫する恐れがあるため、早めの避難をお願いします。



ダム下流にお住まいの皆様は、ダムの機能や放流情報の伝達方法等についてご承知ください。



【ダムの情報】

- 県管理の治水ダム
 - ・佐治川ダム
 - ・百谷ダム
 - ・東郷ダム
 - ・朝鍋ダム
 - ・賀祥ダム



【鳥取県防災情報ポータル】

- 河川監視カメラ提供システム
- とっとりゆきみちナビ

放流の予告（賀祥ダム・朝鍋ダム）

大雨により、ダムへ入ってくる水が多くなった場合、一部をダムにためる操作を行います。（これを「洪水調節」といいます。）

さらに雨が降り続きこの操作が長時間続くと、やがてダムは満水になり、ダムから水があふれ、上流から流れてきた水がそのままダムの下流に流れる状態となります。（これを「緊急放流」=異常洪水時防災操作といいます。）

県は、洪水調節や緊急放流のとき、川や川の付近にいる人に注意をうながすため、事前にサイレンや自動放送を行い、南部町は、防災無線等で状況の連絡や避難指示を行います。

<放流前のサイレンの鳴り方>



<自動放送の例>

～こちらは、鳥取県賀祥ダム管理事務所です。ただ今より、賀祥ダムから水を流します。川の水が増えて危ないので、川から離れて十分注意してください。～
・・・繰返し2回・・・

<警報局の位置、パトロール経路>



- 凡例
- ▲ : 警報局 (Warning Station)
 - ▲ : ダム (Dam)
 - ▲--- : パトロール経路 (Patrol Route)

